続「鍼灸」は「効果」があるのか？

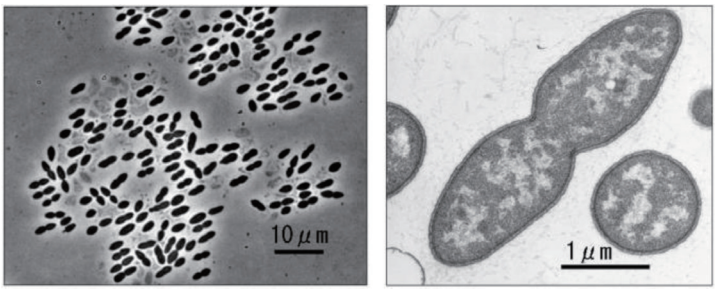
ヨーロッパ医学にはない鍼灸治療の特質
第4回　ヨーロッパ医学と鍼治療の変容

琉球治療院　関　忠雄

1.電子顕微鏡の出現

1928年5月21日、野口英世博士は黄熱病の研究中に51歳で黄熱病に感染して亡くなりました。当時の顕微鏡は光を当てて拡大させる光学顕微鏡で倍率は1500倍程度でした。この顕微鏡ではウイルスを見ることができず、野口博士はウイルスで起きる黄熱病を細菌（バクテリア）によって引き起こされるものと推論していました。その後、野口博士はバクテリアよりもっと小さな生物が存在するという考えに変化しましたがそれを見ることができませんでした。1938年に対象物に光を当てて拡大するのではなく電子を当てて拡大させる電子顕微鏡（当初の電子顕微鏡の最大倍率は1万2000倍）がドイツのシーメンス社から発売され、バクテリアの10分の1～100分の1程度のウイルスを見ることが初めて可能になりました。野口博士が亡くなってから10年が経っていました。これは医学の世界を大きく変えた出来事でした（写真1）。

写真1　同一細菌の光学顕微鏡写真と電子顕微鏡写真（IJSEM誌より）



光学顕微鏡写真　　電子顕微鏡写真

2.マクロ解剖学からミクロ解剖学へ

私は幸運にも2003（平成15）年に新潟大学医学部の第一解剖学教室で研究生として研修できました。担任教官は熊木克治教授でした。まず熊木教授に標本の皮はぎを教えていただきました。その頃はすでに解剖学もマクロ解剖学（肉眼解剖学）からミクロ解剖学（顕微鏡解剖学）へ徐々に変化していました。

診断学の分野では今までの打診・聴診ではなく画像診断が主流になっています。病院へ行って以前のように医師が聴診器を当てたり、頸部を触診することが少なくなりCT画像やMRI画像で診断する時代になりました。今は問診した事柄をコンピューター入力するドクターの姿が普通になっています。

マクロ解剖学からミクロ解剖学への関心の変化で、マクロ解剖学の教育時間は減少し、解剖の知識不足から外科医師の職能低下や志望者数の減少を生じています。外国でも同じような傾向にあるといわれています。

「病理解剖の減少と最近の傾向（帝京短期大学紀要No. 22：145 - 154, 2021）」では、「病理解剖が医師の診断と治療の確認に果たす役割は大きい。いかに画像診断が進歩しようと機械には限界があり、現在の医学のテクノロジーや知識にも限界がある。今後その限界をさらに進歩させなければ医学の向上は望めない。向上させるために系統解剖や病理解剖の実物の裏づけが必要で、実際の解剖から学ばなくてはテクノロジーや知識のさらなる精度の向上はない」とあります（写真2）。

関　忠雄　Tadao Seki

1949年　長野県生まれ
1973年　中央大学法学部卒業
1978年　早稲田鍼灸専門学校卒業／倉島宗二師に師事　臨床鍼灸学を研修
　　関鍼灸治療室を開設
2003年　新潟大学医学部第一解剖学教室で末梢神経（自律神経:迷走神経）解剖を研修
2005年　佐野動物病院にて獣医学を研修
2006年　名古屋市れもん鍼灸接骨院院長
2013年　アルゼンチン（F・バレイラ）鍼灸院院長
2018年　アルゼンチンから帰国
2019年　琉球治療院勤務

3．鍼灸治療の変容

鍼治療については中国・前漢の武帝１４０年頃（紀元66年）に書かれた中国最古の医学書『黄帝内経』にあります。その後、朝鮮の新羅で鍼術を学んだ紀幾男麿（きの きおまろ）によって６４２年、日本に伝えられました（これにより紀幾男麿は鍼博士となり日本の鍼術の祖となりました）。

灸治療については２０００年ほど前に漢民族の中国北方の、モンゴル高原とその周辺で遊牧生活を送る諸民族の独特の治療方法として生まれ、インドに渡り仏教医学として発達しました。そして平安時代に仏教伝来とともに日本に伝えられました。現在は一口に鍼灸といいますがその始まりは別でした。

今の日本での鍼灸治療は、「医師が不足していた時代の治療だったものが、保険制度の関係で鍼灸・接骨院に変容し、さらに身体動作の不自由な患者の増加により訪問鍼灸マッサージへと変化」しています。この中で考えさせられることは治療としての鍼灸がリハビリとしての鍼灸に変化したことです。このため現在の鍼灸は「痛みを和らげる」「しびれを緩和する」「まひを回復させる」という効果が生かせず、鍼灸が持つ本来の結果が得られていません。これは大変残念なことです。

4．鍼灸の原理の確立の必要性

ヨーロッパ医学も鍼灸治療も記載してきたようにさまざまに変容をしています。私が鍼灸の世界に入ったころはヨーロッパ医学で学んだ医師に鍼灸の原理を説明できることが必要でした。健康保険制度が存在し「医師の同意書」の取得が必要だったからです。それから半世紀たった今でも、医師に鍼灸の原理を分かってもらうことができていません。２０００年以上も前に中国で始まった鍼灸という効果のある手技をどうして現代のヨーロッパ医学の原理で説明できないのでしょうか？　それぞれの変容で鍼灸と現代のヨーロッパ医学が交差することはないのでしょうか？　鍼灸治療が忘れ去られることがないように鍼灸の原理の確立と医師に対する説得の必要性を感じています。

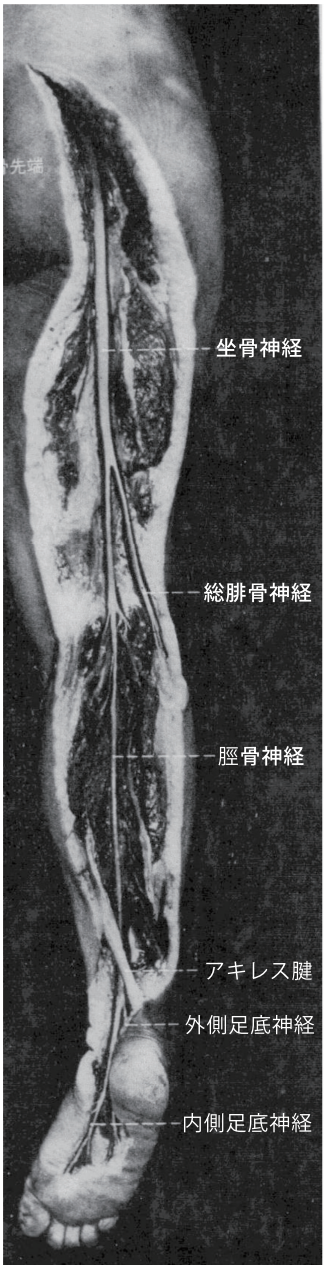
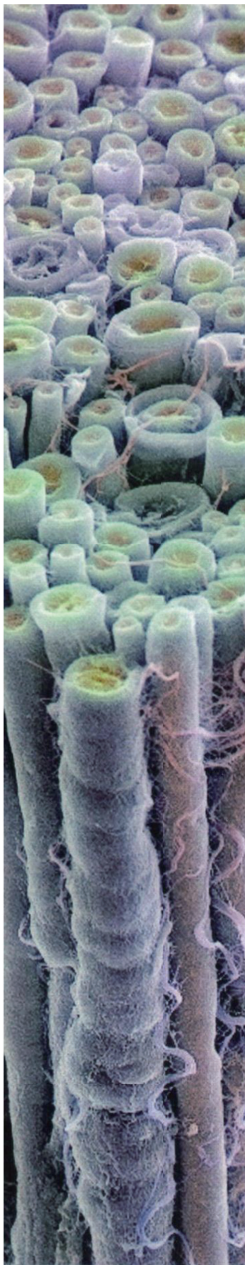



写真２　マクロ解剖とミクロ解剖